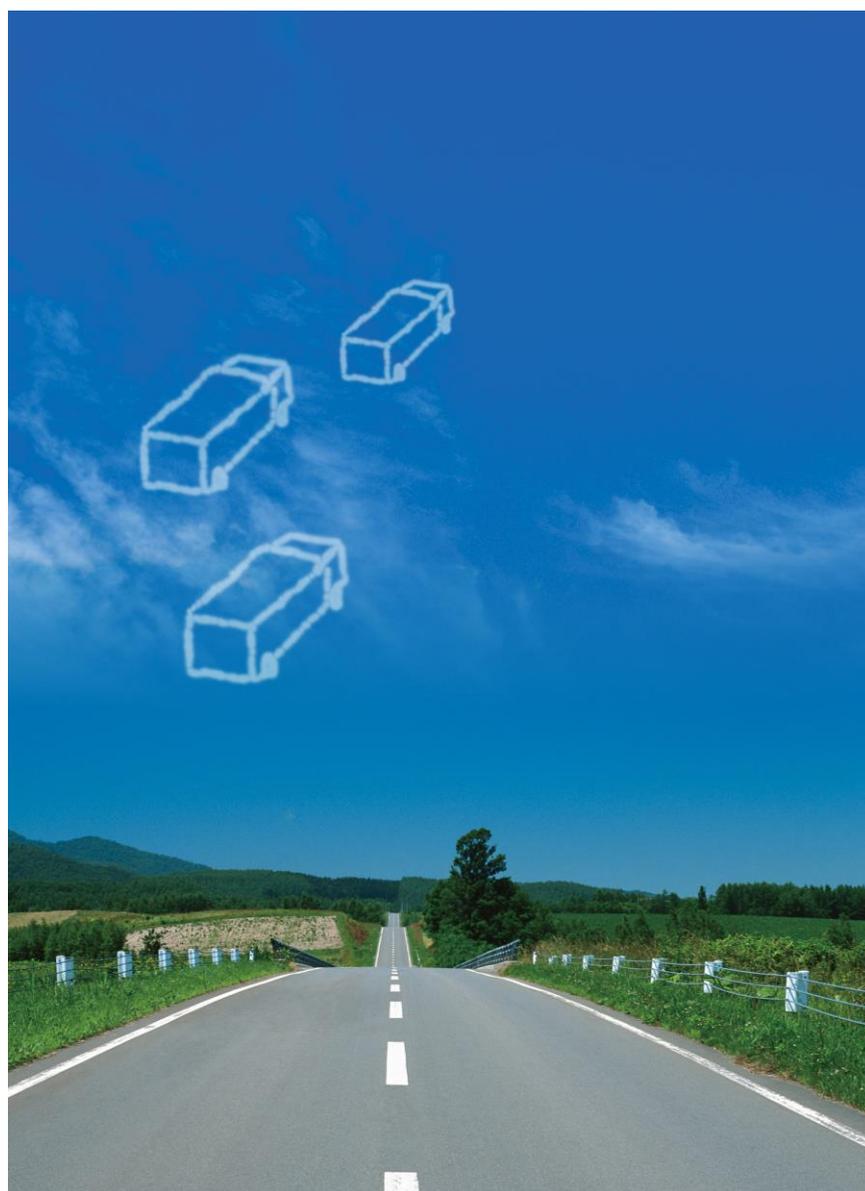


# エコアクション21

## 環境活動レポート No. 8



発行日:2019 年4月15日

活動期間:2018 年1月1日~2018 年12月31日



**株式会社 丸福運送**

## 【 目 次 】

目 次	1
1. 組織の概要	2
(1) 会社概要	2
(2) 登録対象範囲	2
(3) 組織図	3
2. 環境方針	4
3. 環境負荷の調査結果	5～7
4. 環境目標	8～9
5. 環境活動計画	10～11
6. 環境目標の実績	12～17
7. 環境活動計画の取組結果とその評価及び今後の取組内容	18～22
8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	23
9. 代表者による全体評価と見直し結果	24

# 1. 組織の概要

## (1) 会社概要

事業者名 株式会社 丸福運送  
代表者名 瀬尾 茂数  
所在地 〒814-0171 福岡県福岡市早良区野芥4-45-21  
法人設立年月日 昭和41年11月5日  
資本金 1000万円  
主要業務内容 一般貨物運送、引越(一般家庭, 事業所)、精密機械搬入搬出、  
物流資材販売、PCカスタマイズ、産業廃棄物収集運搬

### 事業規模

項目	単位	2015年	2016年	2017年	2018年
売上高	百万円	881	896	882	854
従業員数	人	108	109	108	109
床面積	m <sup>2</sup>	6,306	6,306	6,306	6,306
車両数	台	98	98	94	90

## (2) 登録対象範囲

- 組織
- ・本社 : 福岡県福岡市早良区野芥4-45-21
  - ・福岡営業所 : 福岡県福岡市早良区東入部3-1-8
  - ・東倉庫 : 福岡県糟屋郡粕屋町仲原3-7-38
  - ・南営業所 : 福岡県朝倉郡筑前町朝日1148-1

### ■活動

事業活動の内容 一般貨物自動車運送事業、倉庫業、産業廃棄物収集運搬業  
許可番号等

一般貨物自動車運送事業 福陸自第4937号

倉庫業 福運航第931号

産業廃棄物収集運搬業 許可年月日 有効年月日

福岡県 04000043607 平成30年10月7日 平成35年10月6日  
廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず等、ゴムくず、木くず

佐賀県 04103043607 平成30年11月7日 平成35年11月6日  
ゴムくず並びに廃プラスチック類、金属くず及びガラスくず・コンクリートくず・陶磁器くず

熊本県 04305043607 平成26年5月7日 平成31年4月29日  
ゴムくず、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、廃プラスチック類

山口県 03500043607 平成26年4月6日 平成31年4月5日  
廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず・陶磁器くず

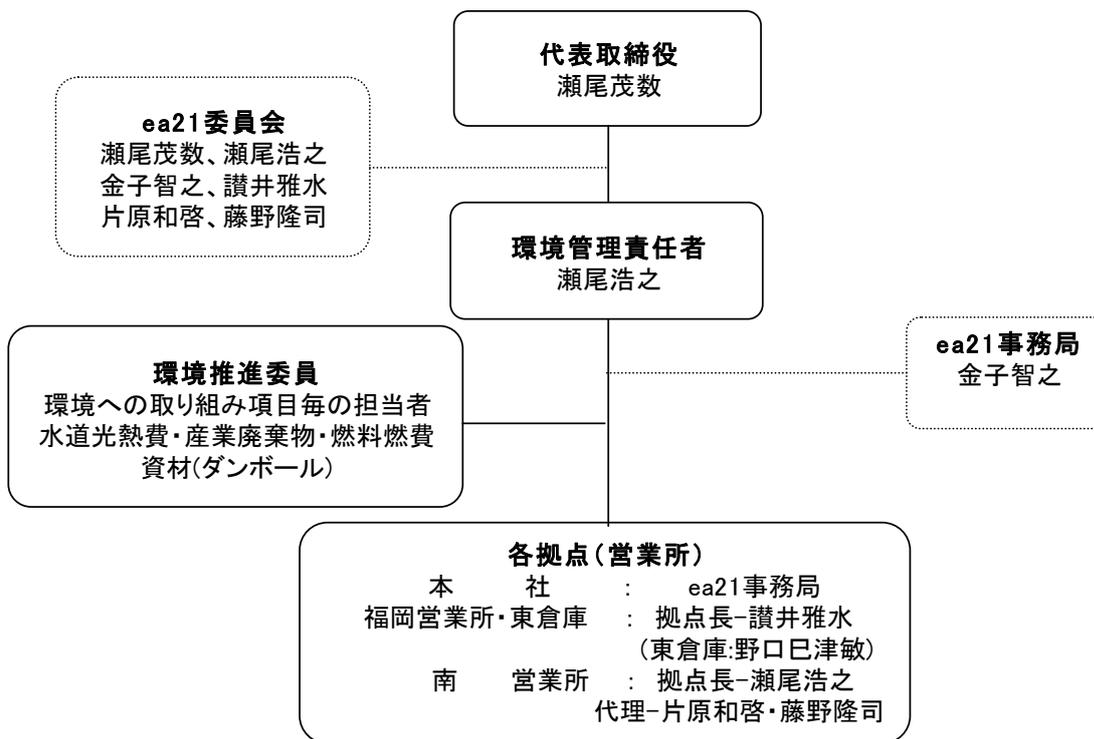
登録車両 バン(箱車) 22台

2018年度 産業廃棄物収集運搬実績 53.5t

環境管理責任者 物流部 部長 : 瀬尾 浩之  
E A-21 事務局 総務部 課長 : 金子 智之  
連絡先(事務局) TEL : 092-801-1155  
FAX : 092-864-1255  
E-mail : [t-kaneko@marufukuunso.co.jp](mailto:t-kaneko@marufukuunso.co.jp)  
URL : <http://www.buturyu.info/>

活動年度 1月～12月

(3) 組織図



役割分担表

所属	役割・責任・権限
代表取締役	①代表者として環境経営全般に関して責任と権限を持つ ②環境方針を策定し従業員全員に周知する ③ea21全体の取り組み状況に関し、評価・見直しを実施する ④環境管理責任者、環境委員などを任命する ⑤環境整備に対する経営資源投入について意志決定する
環境管理責任者	①ea21ガイドラインの要求事項を満たす環境経営システムを構築実行し環境面の実績を向上させる ②上記の結果を最高責任者へ報告する ③ea21の書類の承認をする ④環境委員会の委員長としてea21全般の舵取りを行い、実行を推進する ⑤環境目標、環境活動計画を作成し、社員全員に周知する
環境推進委員	①環境経営システムの文書化をとりまとめる ②環境への負荷の自己チェックを確認し取りまとめる ③環境への取り組みの自己チェックを確認し取りまとめる ④環境管理責任者を補佐し問題点の審議と解決策を立案する
拠点長	①自拠点の環境目標、環境活動計画を拠点全員に周知する ②自拠点の環境目標、環境活動計画の実績把握を行う ③自拠点の教育・訓練を実施する ④社内外の環境情報の収集と伝達を行う ⑤自拠点の緊急事態への準備及び対応の訓練を実施する
ea21委員会	①毎月の拠点長会議後に開催し、環境目標の達成状況及び環境活動計画の実行状況を審議する
事務局	①ea21文書及び記録類の作成・維持・管理を行う ②各拠点内でのサポートを行う

## 2. 環境方針

### 環境理念

株式会社 丸福運送は、環境問題に積極的に取り組み社会に貢献する活動を推進し、地球環境保全及び地域社会の発展に寄与するとともに、社会からいっそう信頼される企業を目指します。

### 環境方針

1. 事業活動全ての業務において、省エネルギー・省資源、廃棄物削減・リサイクル、節水、環境に優しい物品の購入と導入に努めます。
2. 自動車からの排気ガスによる地球温暖化、大気汚染を防止する為、エコドライブの実践、低公害車の導入を推進します。
3. 引越業務や輸送業務、精密機器搬入出業務で使用する資材のリユース化を推進し、新たに購入する資材の削減に努めます。
4. 引越業務や輸送業務、PCカスタマイズ業務で排出される廃棄物（梱包材）の再利用とリサイクルに努めます。
5. 環境目標を設定して、定期的に見直すことにより、環境保全活動の継続的な改善に努めます。
6. 関係する環境法規及びその他の要求事項を遵守し、環境負荷の軽減、環境汚染の防止に努めます。
7. 環境教育、啓発活動を通じて全従業員に本方針を周知するとともに、従業員の意識向上を図り、地域の環境保全に積極的に貢献します。
8. この方針を、広く社外に公開します。

制定：2011年1月1日

株式会社 丸 福 運 送

代表取締役

瀬尾 茂 毅

### 3. 環境負荷の調査結果

環境負荷削減の目標及び環境活動計画を策定するため、過去3年間の環境負荷実績の調査結果は下表の通りです。

全社

環境への負荷		単位	2015年	2016年	2017年	
① 温室効果ガス排出量	二酸化炭素(目標設定項目)*1	kg-CO <sub>2</sub>	1852753.973	1756971.771	1572621.328	
	二酸化炭素(全項目)*2	kg-CO <sub>2</sub>	1852947.948	1757182.614	1572830.062	
	( )	kg-CO <sub>2</sub>				
② 受託した産業廃棄物の処理量	収集運搬量	t	69.885	72.529	42.17	
	中間処理用	t				
	うち再資源化等量	t				
	最終処分量	t				
	中間処理後の産廃の処分量	t				
	中間処理後の産廃の再資源化等量	t				
③ 廃棄物排出量及び廃棄物最終処分量	一般廃棄物	(循環資源量)	t	0	0	0
		(熱回収・焼却)	t	1.5747	1.393	1.2786
		合計量	t	0	0	0
	産業廃棄物	(循環資源量)	t	111.875	130.64	137.975
		(熱回収・焼却)	t	0	0.36	0
		合計量	t	0	0	0
④-1 総排水量	公共用水域	m <sup>3</sup>	0	0	0	
	下水道	m <sup>3</sup>	275	257	301	
④-2 水使用量	上水	m <sup>3</sup>	275	257	301	
	工業用水	m <sup>3</sup>	0	0	0	
	地下水	m <sup>3</sup>	0	0	0	
⑤ 化学物質使用量		kg	0	0	0	
		kg	0	0	0	
		kg	0	0	0	
⑥ エネルギー使用量	購入電力(新エネルギーを除く)	MJ	1317396.94	1208913.06	1172640.36	
	化石燃料	MJ	26244194.06	24911208.02	22248911.73	
	新エネルギー	MJ	0	0	0	
	その他	MJ	0	0	0	
⑦ 物質使用量	資源使用量	t	20.917	21.045	19.837	
	循環資源使用量	t	6.717	5.08	2.803	
⑧ サイト内で循環的利用を行っている物質	利用された物質	t	0	0	0	
	水の利用量	m <sup>3</sup>	0	0	0	
⑨ 総製品生産量または総商品販売量	製品生産量等	t				
	環境負荷低減に資する製品等	t				
	容器包装使用量	t				

- ①温室効果ガス排出量(二酸化炭素)、②廃棄物排出量、③-1総排水量、④化学物質使用量は必須項目です。なお、総排水量の把握が困難な場合には、③-2水使用量が把握必須項目となります。
- 各指標の値については次頁以降の集計結果を記入してください。
- ⑧総製品生産量または総商品販売量について、「製品」は、工場等で製造された品物を意味し、「商品」は、売買の目的物としての品物を意味します。したがって「商品」には、「製品」や「サービス」等も含まれます。
- 購入電力の二酸化炭素排出係数は、九州電力のCO<sub>2</sub>排出係数(平成22年度実績)0.385kg-CO<sub>2</sub>/kWhとしています。

- \*1 目標設定項目(ガソリン、軽油、灯油、電気使用量)での二酸化炭素排出量
- \*2 目標設定外の項目(都市ガス、LPG、産廃廃油)を含む二酸化炭素排出量

※総排水量と水使用量について

南支店(南営業所)の水道はすべて井戸水で使用メーターが付いていないため、その量を把握できません。このため、総排水量と水使用量は、本社、福岡支店(福岡営業所、東倉庫)の値としています。

本社・福岡支店

環境への負荷		単位	2015年	2016年	2017年	
① 温室効果ガス排出量	二酸化炭素(目標設定項目)*1	kg-CO <sub>2</sub>	1049567.843	1016931.761	1017402.635	
	二酸化炭素(全項目)*2	kg-CO <sub>2</sub>	1049761.819	1017142.604	1017611.37	
	( )	kg-CO <sub>2</sub>				
② 受託した産業廃棄物の処理量	収集運搬量	t	69.885	72.529	42.17	
	中間処理用	t				
	うち再資源化等量	t				
	最終処分量	t				
	中間処理後の産廃の処分量	t				
	中間処理後の産廃の再資源化等量	t				
③ 廃棄物排出量及び廃棄物最終処分量	一般廃棄物	(循環資源量)	t	0	0	0
		(熱回収・焼却)	t	0.7778	0.5472	0.5714
		合計量	t	0	0	0
	産業廃棄物	(循環資源量)	t	46.88	49.14	32.77
		(熱回収・焼却)	t	0	0.36	0
		合計量	t	0	0	0
④-1 総排水量	公共用水域	m <sup>3</sup>	0	0	0	
	下水道	m <sup>3</sup>	275	257	301	
④-2 水使用量	上水	m <sup>3</sup>	275	257	301	
	工業用水	m <sup>3</sup>	0	0	0	
	地下水	m <sup>3</sup>	0	0	0	
⑤ 化学物質使用量		kg	0	0	0	
		kg	0	0	0	
		kg	0	0	0	
⑥ エネルギー使用量	購入電力(新エネルギーを除く)	MJ	1049706.38	942647.85	922997.68	
	化石燃料	MJ	14698659.69	14283810.61	14300420.05	
	新エネルギー	MJ	0	0	0	
	その他	MJ	0	0	0	
⑦ 物質使用量	資源使用量	t	20.469	20.623	20.623	
	循環資源使用量	t	6.717	5.08	5.08	
⑧ サイト内で循環的利用を行っている物質	利用された物質	t	0	0	0	
	水の利用量	m <sup>3</sup>	0	0	0	
⑨ 総製品生産量または総商品販売量	製品生産量等	t				
	環境負荷低減に資する製品等	t				
	容器包装使用量	t				

- ①温室効果ガス排出量(二酸化炭素)、②廃棄物排出量、③-1総排水量、④化学物質使用量は必須項目です。なお、総排水量の把握が困難な場合には、③-2水使用量が把握必須項目となります。
- 各指標の値については次頁以降の集計結果を記入してください。
- ⑨総製品生産量または総商品販売量について、「製品」は、工場等で製造された品物を意味し、「商品」は、売買の目的物としての品物を意味します。したがって「商品」には、「製品」や「サービス」等も含まれます。
- 購入電力の二酸化炭素排出係数は、九州電力のCO<sub>2</sub>排出係数(平成22年度実績)0.385kg-CO<sub>2</sub>/kWhとしています。

\*1 目標設定項目(ガソリン、軽油、灯油、電気使用量)での二酸化炭素排出量  
 \*2 目標設定外の項目(都市ガス、LPG、産廃廃油)を含む二酸化炭素排出量

## 南支店

環境への負荷		単位	2015年	2016年	2017年	
① 温室効果ガス排出量	二酸化炭素(目標設定項目)*1	kg-CO <sub>2</sub>	803186.1299	740040.0104	555218.6925	
	二酸化炭素(全項目)*2	kg-CO <sub>2</sub>	803186.1299	740040.0104	555218.6925	
	( )	kg-CO <sub>2</sub>				
② 受託した産業廃棄物の処理量	収集運搬量	t	0	0	0	
	中間処理用	t				
	うち再資源化等量	t				
	最終処分量	t				
	中間処理後の産廃の処分量	t				
	中間処理後の産廃の再資源化等量	t				
③ 廃棄物排出量及び廃棄物最終処分量	一般廃棄物	(循環資源量)	t	0	0	0
		(熱回収・焼却)	t	0.7969	0.8458	0.7072
		合計量	t	0	0	0
	産業廃棄物	(循環資源量)	t	64.995	81.5	105.205
		(熱回収・焼却)	t	0	0	0
		合計量	t	0	0	0
④-1 総排水量	公共用水域	m <sup>3</sup>	0	0	0	
	下水道	m <sup>3</sup>	0	0	0	
④-2 水使用量	上水	m <sup>3</sup>	0	0	0	
	工業用水	m <sup>3</sup>	0	0	0	
	地下水	m <sup>3</sup>	0	0	0	
⑤ 化学物質使用量		kg	0	0	0	
		kg	0	0	0	
		kg	0	0	0	
⑥ エネルギー使用量	購入電力(新エネルギーを除く)	MJ	267690.56	266265.21	249642.68	
	化石燃料	MJ	11545534.37	10627397.41	7948491.682	
	新エネルギー	MJ	0	0	0	
	その他	MJ	0	0	0	
⑦ 物質使用量	資源使用量	t	0.448	0.422	0.337	
	循環資源使用量	t	0	0	0	
⑧ サイト内で循環的利用を行っている物質	利用された物質	t	0	0	0	
	水の利用量	m <sup>3</sup>	0	0	0	
⑨ 総製品生産量または総商品販売量	製品生産量等	t				
	環境負荷低減に資する製品等	t				
	容器包装使用量	t				

- ①温室効果ガス排出量(二酸化炭素)、②廃棄物排出量、③-1総排水量、④化学物質使用量は必須項目です。なお、総排水量の把握が困難な場合には、③-2水使用量が把握必須項目となります。
- 各指標の値については次頁以降の集計結果を記入してください。
- ⑧総製品生産量または総商品販売量について、「製品」は、工場等で製造された品物を意味し、「商品」は、売上の目的物としての品物を意味します。したがって「商品」には、「製品」や「サービス」等も含まれます。
- 購入電力の二酸化炭素排出係数は、九州電力のCO<sub>2</sub>排出係数(平成22年度実績)0.385kg-CO<sub>2</sub>/kWhとしています。

\*1 目標設定項目(ガソリン、軽油、灯油、電気使用量)での二酸化炭素排出量

\*2 目標設定外の項目(都市ガス、LPG、産廃廃油)を含む二酸化炭素排出量

## 4. 環境目標

当社の環境目標は、環境負荷の調査結果より以下のような目標を設定いたしました。尚、目標設定の基準は2015年度のデータを使用しております。

【全社】

目標・活動項目(単位)	2015年度値 (基準値)	2016年度	2017年度	2018年度
1.二酸化炭素排出量の削減 (kg-CO2)	1,852,753	1,834,224	1,815,697	1,797,168
燃料消費量の削減① ガソリン使用量の削減(L)	基準値 27,084	1%削減 26,813	2%削減 26,542	3%削減 26,271
燃料消費量の削減② 軽油使用量の削減(L)	基準値 660,428	1%削減 653,824	2%削減 647,219	3%削減 640,615
電気使用量の削減 (総電気使用)(kWh)	基準値 134,018	1%削減 132,678	2%削減 131,338	3%削減 129,997
灯油使用量の削減(L)	基準値 2,042	1%削減 2,021	2%削減 2,001	3%削減 1,980
2.総排水量の削減(m <sup>3</sup> )	基準値 275	1%削減 272.25	2%削減 269.50	3%削減 266.75
3.廃棄物総排出量の削減(t)	基準値 113.450	1%削減 112.316	2%削減 111.181	3%削減 110.047
4.グリーン購入使用品目の増	基準値 5品目	1品目増 6品目	2品目増 7品目	3品目増 8品目
5.ガソリン・軽油の燃費向上	ガソリン 11.16km/ℓ 軽油 5.56km/ℓ	ガソリン 11.27km/ℓ 軽油 5.61km/ℓ	ガソリン 11.38km/ℓ 軽油 5.66km/ℓ	ガソリン 11.49km/ℓ 軽油 5.71km/ℓ

※購入電力の二酸化炭素排出係数は、九州電力のCO2排出係数(平成22年度実績)0.385kg-CO2/kWhとしています。

【本社・福岡支店】

目標・活動項目(単位)	2015年度値 (基準値)	2016年度	2017年度	2018年度
1.二酸化炭素排出量の削減 (kg-CO2)	1,049,565	1,039,065	1,028,573	1,018,071
燃料消費量の削減① ガソリン使用量の削減(L)	基準値 18,478	1%削減 18,293	2%削減 18,108	3%削減 17,923
燃料消費量の削減② 軽油使用量の削減(L)	基準値 365,983	1%削減 362,322	2%削減 358,663	3%削減 355,003
電気使用量の削減 (総電気使用)(kWh)	基準値 106,786	1%削減 105,718	2%削減 104,650	3%削減 103,582
灯油使用量の削減(L)	基準値 2,042	1%削減 2,021	2%削減 2,001	3%削減 1,980
2.総排水量の削減(m <sup>3</sup> )	基準値 275	1%削減 272.25	2%削減 269.50	3%削減 266.75
3.廃棄物総排出量の削減(t)	基準値 47.658	1%削減 47.176	2%削減 46.706	3%削減 46.229
4.ダンボール使用量の削減(t)	基準値 19.72	1%削減 19.523	2%削減 19.326	3%削減 19.128
5.低公害車の100%導入の維持【運送用車両】	基準値 100%	100%維持 100%	100%維持 100%	100%維持 100%
6.ガソリン・軽油の燃費向上	ガソリン 10.41km/ℓ 軽油 5.52km/ℓ	—	ガソリン 10.61km/ℓ 軽油 5.62km/ℓ	ガソリン 10.71km/ℓ 軽油 5.67km/ℓ

【南支店】

目標・活動項目(単位)	2015年度値 (基準値)	2016年度	2017年度	2018年度
1.二酸化炭素排出量の削減 (kg-CO2)	803,188	795,159	787,125	779,093
燃料消費量の削減① ガソリン使用量の削減(L)	基準値 8,606	1%削減 8,520	2%削減 8,434	3%削減 8,348
燃料消費量の削減② 軽油使用量の削減(L)	基準値 294,445	1%削減 291,502	2%削減 288,556	3%削減 285,612
電気使用量の削減 (総電気使用)(kWh)	基準値 27,232	1%削減 26,960	2%削減 26,688	3%削減 26,415
灯油使用量の削減(L)	基準値 0	1%削減 0	2%削減 0	3%削減 0
2.総排水量の削減(m <sup>3</sup> )	基準値 0	1%削減 0.00	2%削減 0.00	3%削減 0.00
3.廃棄物総排出量の削減(t)	基準値 65.792	1%削減 65.140	2%削減 64.475	3%削減 63.818
4.エコ・地域活動項目の増	基準値 2項目	1項目増 3項目	2項目増 4項目	3項目増 5項目
5.ガソリン・軽油の燃費向上	ガソリン 12.58km/ℓ 軽油 5.61km/ℓ	—	ガソリン 12.82km/ℓ 軽油 5.71km/ℓ	ガソリン 12.94km/ℓ 軽油 5.76km/ℓ

※購入電力の二酸化炭素排出係数は、九州電力のCO2排出係数(平成22年度実績)0.385kg-CO2/kWhとしています。

## 5. 環境活動計画

【全社共通】

No.	環境目標	実施事項	実施部門 責任者
1	電気使用量の削減 (CO2の削減) 《目標》 総電気使用量・・・ 2015年度比 3%削減	①エアコン設定温度の順守 ②休憩時間、不使用時の消灯 ③コピー機の使用頻度を減らす	全拠点 拠点長 本社は事務局
2	燃料使用量の削減 (CO2の削減) 《目標》 ①車両燃料・・・2015年度比3% 削減 (ガソリン・軽油の削減) ガソリン・軽油の燃費向上 《目標》軽油:5.71km/L ガソリン:11.49km/L	①運転指導(デジタコ等)による走行距離あたり 燃料消費効率の向上(エコドライブ) ②車両整備による走行距離あたり燃料消費効率 の向上(エコドライブ) ③タイヤの空気圧を測る ④タイヤのローテーションを行う	全拠点 拠点長 本社を除く
3	灯油使用量の削減 《目標》 2015年度比 3%削減	①冬期時室内温度を守る ②事務所の扉や窓が開けっ放しにしない ③ストーブの利用者が見あたらない時は消火する	全拠点 拠点長 本社は事務局
4	廃棄物排出量の削減 《目標》産業廃棄物量削 減・・・2015年度比3%削減	①引越業務、輸送業務におけるプラスチックダン ボールの利用	福岡営業所 福岡拠点長
5	一般廃棄物排出量の削減	①廃棄物の分別の徹底 ②リユース、リサイクル推進活動の展開 ③排出量の秤量管理	全拠点 拠点長 本社は事務局
6	総排水量の削減 《目標》 2015年度比3%削減	①洗車ルールの周知徹底による節水意識の浸 透 ②ストッパー付き洗車ノズル使用の継続 ③効率の良い洗車手順の調査・指導	全拠点 拠点長 本社は事務局
7	グリーン購入使用品目の促進 《目標》 2015年度より3品目追加	①グリーン購入使用品目の調査 ②今年度購入・使用品目の検討・実施と使用を 推進	全拠点 購入担当者

【各拠点】

No.	環境目標	実施事項	実施部門 責任者
K1	低公害車100%導入の維持 《目標》 100%導入維持	①低公害車の100%導入【運送用車両】	本社 本社購入担当者
K2	ダンボール使用量の削減 《目標》 2015年度より3%削減	①引越業務におけるダンボールの再利用化	福岡営業所 福岡拠点長
K3	エコ・地域活動項目の増 《目標》 2015年度より3項目増	①エコロジー活動を選定し、継続的に活動する ②地域に貢献できる活動を選定し、継続的に活動する	南営業所 南拠点長
K4	【本社・福岡支店】 ガソリン・軽油の燃費向上 《目標》軽油:5.67km/L ガソリン:10.71km/L	全社共通の燃料使用量の削減に同じ	福岡営業所 福岡拠点長
K5	【南支店】 ガソリン・軽油の燃費向上 《目標》軽油:5.76km/L ガソリン:12.94km/L	全社共通の燃料使用量の削減に同じ	南営業所 南拠点長

## 6. 環境目標の実績

環境目標に対する達成状況は以下の通りです。

【全社】

※判定は、○..達成 ×..未達

環境目標	2015年度 (基準値)	2018年度 目標値		2018年度 年合計	
		目標値	実績値	判定	
1. 二酸化炭素排出量	二酸化炭素排出量 1,852,753 kg-CO2	-	-	目標値	1,797,169
		-	-	実績値	1,471,251
				判定	○
	燃料消費量の削減	①ガソリンの削減 27,084 L 実施責任者：本社除く拠点長	基準年度比 3%削減	目標値	26,271.00
				実績値	25,158.76
		判定		○	
		②軽油の削減 660,428 L 実施責任者：本社除く拠点長		目標値	640,615.00
	実績値		520,714.47		
	事務所及び作業場の電力・灯油使用量の削減	③電気使用量 134,018 kWh 実施責任者：各拠点長	基準年度比 3%削減	目標値	129,997
				実績値	111,863
判定		○			
④灯油の削減 2,042 L 実施責任者：各拠点長		目標値		1,980.00	
	実績値	1,301.00			
2. 総排水量の削減	排水量 275 m <sup>3</sup> 実施責任者：各拠点長	基準年度比 3%削減	目標値	266.75	
			実績値	222.00	
			判定	○	
3. 廃棄物総排出量の削減	総廃棄物量 113.45 トン 実施責任者：各拠点長	基準年度比 3%削減	目標値	110.047	
			実績値	161.328	
			判定	×	
4. グリーン購入使用品目の増	グリーン購入使用品目の増 5 品目 実施責任者：拠点購入担当者	基準年度より 3品目追加	目標値	3品目追加	
			実績値	購入使用維持	
			判定	○	
5. ガソリン・軽油の燃費向上	2015年度 11.16km/L	11.49km/L	ガソリン	9.99	
	基準データ 5.56km/L	5.71km/L	軽油	5.58	
	実施責任者：本社除く拠点長	基準より3%向上	判定	×/×	

○全項目（目標設定外の項目を含む）の二酸化炭素排出量 1,471,443kg-CO2

※購入電力の二酸化炭素排出係数は、九州電力のCO2排出係数（平成22年度実績）0.385kg-CO2/kWhとしています。

※総排水量と水使用量について、南支店（南営業所）の水道はすべて井戸水で使用メーターが付いていないため、その量を把握できません。このため、総排水量と水使用量は、本社、福岡支店（福岡営業所、東倉庫）の値としています。また、福岡営業所の井戸ポンプを2018年11月に修理し、福岡営業所は上水と井戸水の併用となりましたが、井戸使用メーターを付けていないためその使用量を把握できていません。

【本社・福岡支店】

※判定は、○..達成 ×..未達

環境目標	2015年度 (基準値)	2018年度			
		目標値	2018年度 年合計		
1. 二酸化炭素排出量	二酸化炭素排出量 1,049,565 kg-CO2	-	目標値	1,018,073	
		-	実績値	990,568	
			判定	○	
	燃料消費量の削減	①ガソリンの削減 18,478 L 実施責任者：本社除く拠点長	基準年度比 3%削減	目標値	17,923.00
				実績値	13,923.24
				判定	○
		②軽油の削減 365,983 L 実施責任者：本社除く拠点長		目標値	355,003.00
				実績値	351,607.33
				判定	○
	事務所及び作業場の電力・灯油使用量の削減	③電気使用量 106,786 kWh 実施責任者：各拠点長	基準年度比 3%削減	目標値	103,582
実績値				83,803	
④灯油の削減 2,042 L 実施責任者：各拠点長		目標値		1,980.00	
		実績値		1,301.00	
判定	○				
2. 総排水量の削減	排水量 275 m <sup>3</sup> 実施責任者：各拠点長	基準年度比 3%削減	目標値	266.75	
			実績値	222.00	
			判定	○	
3. 廃棄物総排出量の削減	総廃棄物量 47.658 トン 実施責任者：各拠点長	基準年度比 3%削減	目標値	46.229	
			実績値	62.883	
			判定	×	
4. ダンボール使用量の削減	総使用量 19.72 トン 実施責任者：福岡拠点長	基準年度比 3%削減	目標値	19.128	
			実績値	17.440	
			判定	○	
5. 低公害車の100%導入の維持	低公害車導入率 (%) 実施責任者：本社購入担当者	100%維持	目標値	100%維持	
			実績値	100%維持	
			判定	○	
6. ガソリン・軽油の燃費向上	2015年度 10.41km/L	10.71km/L	ガソリン	8.29	
	基準データ 5.52km/L	5.67km/L	軽油	5.53	
	実施責任者：本社除く拠点長	基準より3%向上	判定	×/×	

○全項目（目標設定外の項目を含む）の二酸化炭素排出量 990,760kg-CO2

※購入電力の二酸化炭素排出係数は、九州電力のCO2排出係数（平成22年度実績）0.385kg-CO2/kWhとしています。

## 【南支店】

※判定は、○..達成 ×..未達

環境目標	2015年度 (基準値)	2018年度 目標値	2018年度	
			年合計	
1. 二酸化炭素排出量	二酸化炭素排出量 803,188 kg-CO2	-	目標値	779,094
			実績値	480,683
			判定	○
燃料消費量の削減	①ガソリンの削減 8,606 L 実施責任者：本社除く拠点長	基準年度比 3%削減	目標値	8,348.00
			実績値	11,235.52
			判定	×
	②軽油の削減 294,445 L 実施責任者：本社除く拠点長		目標値	285,612.00
			実績値	169,107.14
			判定	○
事務所及び作業場の電力・灯油使用量の削減	③電気使用量 27,232 kWh 実施責任者：各拠点長	基準年度比 3%削減	目標値	26,415
			実績値	28,060
			判定	×
	④灯油の削減 0 L 実施責任者：各拠点長		目標値	0.00
			実績値	0.00
			判定	○
2. 総排水量の削減	排水量 0 m <sup>3</sup> 実施責任者：各拠点長	基準年度比 3%削減	目標値	0.00
			実績値	0.00
			判定	
3. 廃棄物総排出量の削減	総廃棄物量 65.792 トン 実施責任者：各拠点長	基準年度比 3%削減	目標値	63.818
			実績値	98.450
			判定	×
4. エコ・地域活動項目の増	エコ・地域活動項目の増 2 項目 実施責任者：南営業所拠点長	基準年度より 3項目追加	目標値	1項目追加
			実績値	活動を維持
			判定	○
5. ガソリン・軽油の燃費向上	2015年度 12.58km/L	12.94km/L	ガソリン	11.91
	基準データ 5.61km/L	5.76km/L	軽油	5.67
	実施責任者：本社除く拠点長	基準より3%向上	判定	×/×

○全項目（目標設定外の項目を含む）の二酸化炭素排出量 480,683kg-CO2

※購入電力の二酸化炭素排出係数は、九州電力のCO2排出係数（平成22年度実績）0.385kg-CO2/kWhとしています。

## (1) 燃料消費量の削減【全社、本社・福岡支店、南支店】

目標値について、軽油の消費量は全社、本社・福岡支店、南支店全てにおいて目標を達成しています。ガソリンの消費量は南支店以外の全社、本社・福岡支店において目標を達成しています。南支店のガソリン消費量が目標を達成出来なかった原因は、ガソリン車を福岡営業所から南営業所へ前々年度までに2台移籍したことが影響したと考えられます。移籍した分ガソリン使用量が本社・福岡支店で減少し、結果、全社では目標を達成していますので、南支店のガソリン使用量も目標を達成したとみています。

南支店の軽油消費量が前年度よりさらに減少しています。前年度の2015年度比が67%でしたが、今年度は57%と10ポイント減少しています。これは南支店の売上減少による走行距離の減少が原因とみています。

燃料消費量の基準年度(2015年度)と今年度比較

		2015年度	2018年度 (2015年度比)
ガソリン	本社・福岡支店	18,478.44L	13,923.24L (75%)
	南支店	8,605.51L	11,235.52L (131%)
	全社	27,083.95L	25,158.76L (93%)
軽油	本社・福岡支店	365,983.85L	351,607.33L (96%)
	南支店	294,444.60L	169,107.14L (57%)
	全社	660,428.45L	520,714.47L (79%)

前年度から引き続き、自社車両で運送した走行距離とその売上の関係を把握し、売上の単位で燃料消費量を簡易に見えるような方法を模索していきます。

2017年7月に合併しました「株式会社 明和運輸」の車両は南支店の所属となりましたが、今年度の燃料消費量の目標・実績には含めていません。次年度は3カ年目標の設定に当たるので、次年度以降は旧明和運輸の車両も含めて目標・実績管理を行います。今年度の軽油消費量は下記の通りです。

大型冷凍車 6台 軽油 2018年度消費量 91,300.60L 2.37km/L

## (2) ガソリン・軽油の燃費向上【全社、本社・福岡支店、南支店】

今年度は、全社、本社・福岡支店、南支店のガソリン・軽油すべてにおいて目標を達成できませんでした。また、旧明和運輸の車両を含めた結果も達成できませんでした。

		目標	今年度
ガソリン	本社・福岡支店	10.71km/L	8.29km/L
	南支店	12.94km/L	11.91km/L
	全社	11.49km/L	9.99km/L
軽油	本社・福岡支店	5.67km/L	5.53km/L
	南支店	5.76km/L	5.67km/L
	全社	5.71km/L	5.58km/L
	旧明和運輸含む	5.35km/L	5.10km/L (軽油・全社に含めた結果)

ガソリン・軽油共に前年度より悪化しました。また、ガソリンは基準年度(2015年度)より悪化しています。南支店のトラック運転者は以前から省エネ運転の意識が高く、その結果が年々の値に表れていましたが、今年度5月から燃費が悪化しそのまま回復せず今年度が終わりました。原因は色々考えられますが、主としての確な指導方法がなされていないことにあると思われます。ガソリンについても同様と考えます。

本社・福岡支店はデジタルタコグラフ(デジタコ)を10月から新しく入れ替えました。これまでより正確な安全運転記録と安全運転判定が出力されるようになり、効果が10月から表れました。但し、これは新規導入時の効果であり、これを継続するにはよりの確な指導が求められます。これを機会に指導方法や管理体制の見直し・改善を進めます。

次年度は、下記のように車両を6つに分類し、全社、本社・福岡支店、南支店毎にそれぞれ目標・実績管理を行います。旧明和運輸の車両も下記の分類に含めます。

①ガソリン ・営業車 ・自家用車

②軽油 ・大型車 ・中小型車 ・コンビニ（福岡支店） ・チルド（南支店）

次年度は、目標達成に向けて6つの分類ごとに的確な指導方法を研究・実施し、また、ドライバーへの意識付けも行うよう努めます。

### （3） 事務所及び作業場の電気使用量の削減【全社、本社・福岡支店、南支店】

全社及び本社・福岡支店において目標を達成できました。南支店は目標を達成できませんでした。南支店について、一昨年は目標達成できず前年度は目標達成できましたが、今年度は目標達成できずと、年度によって目標達成できたりできなかったりしており、目標値が削減の限界に近づいているように感じます。今までとは違う節電手法が求められています。夏場のグリーンカーテンは効果が表れています。

福岡支店において、倉庫内の電灯の切り忘れが目立つようになり気づいたら切るように指導していましたが、人感センサー付の照明を試しに設置し効果を検証しています。

冬期のエアコン使用による電力増加をいかに抑えるか、エアコンの熱を拡散させない有効利用する方法を模索し研究します。また、各拠点の事務所や倉庫においてもさらに節電の意識向上を進めます。

### （4） 事務所及び作業場の灯油使用量の削減【全社、本社・福岡支店（、南支店）】

灯油は本社と福岡営業所において、石油ストーブでの利用のみとなっています。

本社・福岡支店、南支店及び全社において目標を達成できました。今シーズン、本社・福岡支店では、石油ストーブよりエアコンの使用が多く灯油の使用量が減少しましたが、電気使用量が多くなりました。

### （5） 総排水量の削減【全社、本社・福岡支店（、南支店）】

従業員皆さんの節水意識が定着したようで安定した使用量となり、目標を達成しました。

洗車時間の管理は本社・福岡支店において引き続き行っています。南支店においては、雨水利用のタンク設置及び洗車場の整備が出来ておらず洗車場での洗車が出来ない状態が続いています。南支店の洗車時間の管理が出来るよう、設備工事の予算を早めに確保するよう努力します。本社・福岡支店の今年度の合計洗車時間／台数は下記の通りでした。

2018年度 本社・福岡支店の合計洗車時間 87時間39分／388台（13分／台）

総車両台数から洗車割合を考えると洗車した車両台数が少なくみえます。総ての洗車報告が行われていないと思われるので、洗車報告の徹底を指導します。

南支店の水道はすべて井戸水で使用メーターが付いていないため、その量を把握できません。このため、総排水量と水使用量は、本社、福岡支店（福岡営業所、東倉庫）の値としています。また、福岡営業所は上水と井戸水の併用ですが、井戸使用メーターを付けていないためその使用量を把握できていません。

### （6） 廃棄物総排出量の削減【全社、本社・福岡支店、南支店】

全社、本社・福岡支店及び南支店は目標達成できませんでした。

	本社・福岡支店	南支店	全社
2017年度排出量	33.342ト	105.914ト	139.255ト
2018年度排出量	62.883ト	98.450ト	161.328ト

本社・福岡支店において、3期目まではほぼ目標値通りで進んでいましたが、4期目の11月、12月で廃棄物排出量が増え目標値を超えてしまいました。11月から取引を始めた新規のお客様による廃棄物が増えたことが原因と考えられます。今後このお客様による廃棄物排出量が増えると予想されますので、このお客様（個々のお客様）の廃棄物排出量が判るよう集

計方法を考慮します。

南支店は、昨年から続く梱包材による廃棄物です。目標は達成しませんでしたでしたが荷主様のご協力もあり今年度は昨年度より減少しています。この傾向で進めていきます。

本社・福岡支店及び南支店において、今後も廃棄物の分別やリサイクル、お客様・荷主様のご協力をお願いし、廃棄物排出量を減少させるよう努力します。

#### (7) グリーン購入使用品目増【全社】

レーザープリンタトナーとジェルジェットインク、トラック用タイヤ、制服(運転者・事務)、書類を綴じるファイル、糊・テープ、マジック・サインペン、その他筆記具を前年までに対象としてまいりました。今年度は、事務用品全般を追加項目としました。会社購入に限らず個人購入のファイルもなるべくエコマーク付きにするよう、従業員へお願いしました。

#### (8) ダンボール使用量の削減【福岡支店】

今年度は目標達成できました。

前年度と比較すると、プラスチックダンボールの使用量は減少していますが、中古ダンボールの使用量が増加しています。中古ダンボール利用の増加が目標達成できた大きな要因だと思われまます。営業担当者からお客様へのアピール効果であること期待します。

	プラスチックダンボール	中古ダンボール
2017年度	1, 130枚	3, 590枚
2018年度	1, 046枚	7, 125枚

今後も中古ダンボールやプラスチックダンボールの利用を営業担当者からお客様へアピールするよう引き続き行ってまいります。また、引き続きダンボール以外の資材(テープ類や梱包材)の削減目標ができるよう検討します。

#### (9) 低公害車の100%導入の維持【本社】

今年度、2月2台、7月2台、8月1台、9月1台、11月1台、12月に1台のトラックの新車購入がありました。低公害車の確認をしました。

#### (10) エコ・地域活動項目の増【南支店】

事務所横のグリーンカーテンは今年度で6年目となりました。前年度よりは成長し、窓の半分足りない位を覆うまでに育ちました。夏場の事務所内の温度上昇抑止効果が感じられました。年々成長していますので、次年度も引き続き育てます。節電効果を期待します。

前年度から始めた営業所周辺の道路脇などを週1回ペースで清掃する活動を、確実に週1回、なるべく時間を取って週2回にすることにしました。朝の業務の都合により毎週確実に出来ていませんが、これからも引き続き実施していきます。

## 6. 環境活動計画の取組結果とその評価及び今後の取組内容

当社としては、本社・福岡支店及び南支店の事業活動における環境への負荷を低減するために、以下の通り活動を実施しています。なお、その達成状況や活動の実施状況を毎月のE A-21委員会にてフォローしております。

### ■ 環境活動計画の取組結果

#### (1) 電気使用量の削減

当社のCO<sub>2</sub>排出量としては3番目に多い電気(2.78%)使用量を削減することとしました。

- ① 休憩時間の消灯や未使用時の電源OFFの実施と節電シールの表示
- ② 温度計の設置
- ③ 空調使用時の温度管理の徹底(夏季:26℃~28℃、冬期:20℃~22℃)
- ④ 節電管理表への記入による確認
- ⑤ コピー機の使用頻度を減らす

#### (2) 燃料使用量の削減・ガソリン軽油の燃費向上

当社のCO<sub>2</sub>排出量としては1番目に多い軽油(93.55%)2番目に多いガソリン(3.39%)使用量を削減することが当社として最大の効果があると考え下記のような対策を実施しております。

- ① 無駄なアイドリングのストップ(荷物積込み及び荷降ろし時にエンジンをストップ)
- ② 急加速、急減速、不要な高回転、速度超過を行わない
- ③ 運行管理者より運転者への指導
- ④ 日常点検の実施(整備管理者による指導)
- ⑤ 整備管理者は定期的に車輛のタイヤの状態を確認する
- ⑥ 整備管理者はタイヤのローテーションをタイヤや運行の状況に応じて実施する

#### (3) 灯油使用量の削減

当社のCO<sub>2</sub>排出量比率は低いですが、使用量が多いため使用量を削減することとしました。

- ① 冬期時室内温度を守る
- ② 事務所の扉や窓が開けっ放しにしない
- ③ ストープの利用者が見あたらない時は消火する

#### (4) 産業廃棄物排出量の削減

廃棄物排出量の中で、引越や運送の梱包資材として使うダンボールの排出量を削減するための対策を実施しています。

- ① 営業担当者はお客様にプラスチックダンボールの利用を勧める
- ② お客様のプラスチックダンボール利用向上を図る施策を拠点内で検討、実施する
- ③ 自社内で使用するダンボールは、プラスチックダンボールや買い物かごとする

#### (5) 一般廃棄物排出量の削減

一般廃棄物はリサイクル・リユースできるものも多く、これらを少しでも分別して再資源化できるような対策を実施しています。

- ① 一般廃棄物は、分別札に応じた分別がされている
- ② ミスコピーは再利用箱に入れる
- ③ 電子メール・掲示板・回覧・スキャナ・ファイルサーバーを利用し、印刷を減らす。また、会議資料等の配布物を少なくする
- ④ 排出量は、市販されている簡易な秤で計量する

## (6) 総排水量の削減

当社の水資源の使用は主に車輛の洗車です。水を出しっぱなしにしないように、水を使う時間を短くするような対策を実施しています。

- ① 水を出っぱなしにせず、こまめに水を止め使用する
- ② 洗車記録書に洗車実施者と洗車時間を記入する（整備管理者への報告）
- ③ ストッパー付き洗車ノズルの使用の継続
- ④ 効率の良い洗車手順の調査・指導

## (7) グリーン購入使用品目増

当社のグリーン購入品の購入ルールを作り、購入担当者への指導とグリーン購入品の拡大への活動を展開しております。購入だけでなく使用品目も対象としています。

- ① 比較的多く購入している物で、グリーン製品に替わる物を調査し、今年度追加する購入品目を決定し、購入担当者へ周知指導する。
- ② トラックの修理部品や消耗品等のエコマーク商品の検討と実施
- ③ 個人で購入・使用する物もなるべくグリーン購入品やエコマーク付きを選択するよう従業員へお願いする。

## (8) ダンボール使用量の削減

当社は引越業務を営んでいます。引越業務で使用するダンボールをリユースし、新しいダンボールの使用量を削減する対策を実施しています。

- ① 営業担当者はお客様に再利用ダンボールの利用を勧める
- ② お客様の利用向上を図る施策を拠点内で検討、実施する
- ③ 使用済みダンボールの回収率を上げる工夫を拠点内で検討、実施する

## (9) 低公害車100%導入の維持

当社は一般貨物自動車運送事業を営んでおり、運送業務で使用する車輛を低公害車へ替えていくことは必須だと考えます。

- ① 購入担当者は、低公害車の100%導入を維持する

## (10) エコロジー・地域活動項目の増

当社は、身近なエコロジー活動や地域に貢献した参加できる活動を推進します。この活動から次への発展を期待します。

- ① エコ活動，地域に貢献・参加できる活動を調査し、今年度活動可能な項目を決定する。
- ② 手順や実施方法を検討し、実施する。

## (11) その他

本社・福岡支店及び南支店は前年度から引き続き、計画に基づいて活動を実施しております。

- ① 教育訓練の実施
  - 従業員への教育
    - 朝礼や安全会議でのエコアクション21への取り組みについての説明、社長及び各拠点長による指導・掲示物・指標などの掲示による意識向上を実施してきました。
- ② 毎年取組み状況チェック
- ③ EA-21システムの確実な実施
- ④ その他
  - 当社内出入り業者に対して、アイドリングストップのお願い要請と事務所入口に「アイドリングストップ」の表示を実施しています。
  - この環境活動レポートを、本社、福岡営業所及び南営業所に常備し、外部に公開しています。

## ■ 環境活動計画の取組に対する評価

E A-21 環境改善取組みは2011年1月から実施し、本レポートも8回目となりました。途中、実施体制の変更や組織変更などが何度かありましたが、大きな組織変更はグループ会社の「株式会社 明和運輸」を2017年7月に合併したことが最後に会社組織は安定しました。

今年度は、2016年度に設定した3カ年環境活動目標値（2015年度を目標基準年度）の最後の年度です。また、前年度からガソリン・軽油の燃費向上目標を、全社、本社・福岡支店及び南支店それぞれに設けた2年目となりました。

環境活動目標値に対し受注や売上高、作業量などによって増減する実績値の評価をどのようにとらえるかを、前年度から引き続き検討・研究しています。燃料消費量は運送売上の増減に影響されます。また、環境目標値設定基準年度より車輛所属の変更や車両台数の増減があった場合、設定された環境目標値と実環境の条件が異なることとなります。廃棄物排出量は、取引先(荷主)毎に廃棄物排出量を把握できればそれに対応することが出来るようになるので、その手法を検討しています。

内部監査について、今年度は実施しました。月次のチェックで使用しています「活動手順書兼拠点用内部監査チェックシート」の拠点用内部監査チェックシートに運行管理内部監査項目を追加して福岡支店と南支店相互に実施しました。監査はE A-21 専門として行うのではなく、現業業務（運行管理の一部）の内部監査を主とし、それにE A-21 の監査を織り込むような形で行いました。現業業務についてはスムーズに進みましたが、E A-21 の監査になるとインタビューの仕方や質問内容など色々な疑問、質問があり、今後に向けての重要な内容となりました。今回の内部監査は監査人の教育の実施や進め方も含んでおり、監査人として勉強会も兼ねていました。これから監査内容・項目を整えていくとともに、監査人の教育、レベルアップを目指します。前年度以前からマンネリ化が指摘されています環境活動の啓蒙指導（従業員の意識向上・理解）について、今年度は新たな手法や教材の開発・発見は出来ずそのままとなっています。引き続き新たな手法や教材の開発を行います。

E A-21 の十分な運用ができるよう、今後も環境方針に基づき、当社の事業活動のあらゆる分野で、環境に配慮した行動に努めていく所存です。

### (1) 電力使用量の削減（判定【全社：○，本社・福岡支店：○，南支店：×】）

全社及び本社・福岡支店において目標を達成できました。南支店は目標を達成できませんでした。南支店について、実績使用量が目標に対して106.23%でした。前年度は目標達成できていたので残念です。本社・福岡支店及び南支店において、目標値が削減の限界に近づいているように感じます。今までは違う節電手法が求められています。冬期のエアコン使用による電力増加をいかに抑えるか、エアコンの熱を拡散させない、熱や空気の流れをコントロールするなどこれまでと違う節電方法を模索します。

### (2) 灯油使用量の削減（判定【全社：○，本社・福岡支店：○（，南支店：○）】）

灯油は本社と福岡営業所において、石油ストーブでの利用のみとなっています。南支店においての灯油使用はありません。

今シーズン、本社・福岡支店では、石油ストーブよりエアコンの使用が多く灯油の使用量が減少しましたが、電気使用量が多くなりました。エアコンとストーブをバランス良くまた効率よく利用するよう利用方法を検討します。

### (3) 燃料使用量の削減（判定【全社：○/○，本社・福岡支店：○/○，南支店：×/○】）

南支店のガソリン消費量以外は全社、本社・福岡支店、南支店のガソリン・軽油共に目標を達成しています。目標を達成できなかった原因は、ガソリン車を福岡営業所から南営業所へ前々年度までに2台移籍したことが影響したと考えられます。移籍した分ガソリン使用量が本社・福岡支店で減少し、結果、全社では目標を達成していますので、南支店のガソリン使用量も目標を達成したとみています。

- (4) **ガソリン・軽油の燃費向上 (判定【**全社：×/×, 本社・福岡支店：×/×, 南支店：×/×**】)**  
全社、本社・福岡支店、南支店のガソリン・軽油すべてにおいて目標を達成できませんでした。また、旧明和運輸の車両を含めた結果も達成できませんでした。  
ガソリン・軽油共に前年度より悪化しました。また、ガソリンは基準年度(2015年度)より悪化しています。南支店のトラック運転者は以前から省エネ運転の意識が高く、その結果が年々の値に表れていましたが、今年度5月から燃費が悪化しそのまま回復せず今年度が終わりました。原因は主として的確な指導方法がなされていないことにあると思われます。  
本社・福岡支店はデジタルタコグラフ(デジタコ)を10月から新しく入れ替え、その効果が10月から表れました。効果を継続するための運転指導を進めます。  
来年度からより詳細に燃費を把握するため、車両を6つに分類し目標・実績管理を行います。旧明和運輸の車両も分類の中に含めます。
- (5) **廃棄物総排出量の削減 (判定【**全社：×, 本社・福岡支店：×, 南支店：×**】)**  
全社、本社・福岡支店及び南支店すべてにおいて目標達成できませんでした。  
本社・福岡支店において、3期目まではほぼ目標値通りで進んでいましたが、4期目の11月、12月で廃棄物排出量が増え目標値を超えてしまいました。原因は11月から取引を始めた新規のお客様による廃棄物の増加が考えられます。南支店は、目標は達成出来ませんでした。が荷主様のご協力もあり今年度は前年度より減少しています。  
分別を細かく、分解できる物は分解しリサイクルするという事、お客様や荷主様にお願い・ご協力を頂き、廃棄物排出量を減少させるよう努力します。
- (6) **総排水量の削減 (判定【**全社：○, 本社・福岡支店：○**】)**  
総排水量の削減は目標を達成できました。  
総排水量の削減において、南支店の水道はすべて井戸水で、使用メーターも未設置のため、その使用水量を数値で計ることができません。目標値/実績値は、本社・福岡支店の値としています。また、福岡営業所は上水と井戸水の併用ですが、井戸使用メーターを付けていないためその使用量を把握できていません。  
洗車時間の管理は本社・福岡支店において引き続き行っています。南支店においては、雨水利用のタンク設置及び洗車場の整備が出来ておらず洗車場での洗車が出来ない状態が続いています。南支店の洗車時間の管理が出来るよう、設備工事の予算を早めに確保するよう努力します。
- (7) **グリーン購入使用品目増 (判定【**全社：○**】)**  
レーザープリンタトナーとジェルジェットインク、トラック用タイヤ、制服(運転者・事務)、書類を綴じるファイル、糊・テープ、マジック・サインペン、その他筆記具を前年までに対象としてまいりました。今年度は、事務用品全般を追加品目としました。会社購入に限らず個人購入のファイルもなるべくエコマーク付きにするよう、従業員へお願いしました。
- (8) **ダンボール使用量の削減 (判定【**福岡支店：○**】)**  
今年度は目標達成できました。前年度と比較すると、プラスチックダンボールの使用量は減少していますが、中古ダンボールの使用量が増加しています。中古ダンボール利用の増加が目標達成できた大きな要因だと思われます。今後も中古ダンボールやプラスチックダンボールの利用を営業担当者からお客様へアピールするよう引き続き行ってまいります。また、引き続きダンボール以外の資材類(テープ類や梱包材)の削減目標ができるようデータの収集と準備を行います。
- (9) **低公害車100%導入の維持 (判定【**本社：○**】)**  
今年度、2月2台、7月2台、8月1台、9月1台、11月1台、12月に1台のトラックの新車購入がありました。低公害車の確認をしました。
- (10) **エコ・地域活動項目の増 (判定【**南支店：○**】)**  
事務所横のグリーンカーテンは今年度で6年目となりました。前年度よりは成長し、窓の半分足りない位を覆うまでに育ちました。夏場の事務所内の温度上昇抑止効果が感じられました。年々成長していますので、次年度も引き続き育てます。節電効果を期待します。

前年度から始めた営業所周辺の道路脇などを週1回ペースで清掃する活動を、確実に週1回、なるべく時間を取って週2回にすることにしました。朝の業務の都合により毎週確実に出来ていませんが、これからも引き続き実施していきます。

## ■ 今後の取組内容

今年度は、2016年度に設定した3カ年環境活動目標値（2015年度を目標基準年度）の最後の年度となりました。また、前年度からガソリン・軽油の燃費向上目標を、本社、本社・福岡支店及び南支店それぞれに設けた2年目となりました。今年度の燃費向上目標はすべてにおいて達成出来ませんでした。本社・福岡支店はデジタルタコグラフ（デジタコ）を新機種に替えた効果が若干現れていますが、南支店は今年度5月から燃費が悪化したまま回復せず今年度が終わりました。南支店の燃費悪化の原因追及のためにも、燃費管理のグループをもっと細かくするようにしました。

来年度は、新に今年度（2018年度）を目標基準年度とした3カ年環境活動目標値を設定します。車両・燃料に関わる項目は、2017年7月に合併しました「株式会社 明和運輸」の車両・燃料を含めます。

来年度は、ガソリン・軽油の燃費向上を目標実績管理とするグループを下記のように車両を6つに分類し、本社、本社・福岡支店、南支店毎とします。

①ガソリン ・ 営業車 ・ 自家用車

②軽油 ・ 大型車 ・ 中小型車 ・ コンビニ（福岡支店） ・ 冷凍チルド（南支店）

福岡支店にチルド4t車が2台ありますが、冷凍チルド車の管理は南支店一括で行っているため、燃料使用量の削減（軽油）、軽油の燃費向上の目標実績管理は南支店に含めます。

燃料使用量は運送売上の増減に影響されます。また、環境目標値が設定された条件と実環境が異なる状況になることがあります。これからは、環境活動目標値に対し受注や売上高、作業量など（実環境）によって増減する実績値の評価をどのようにとらえるかを研究してまいります。

廃棄物排出量削減について、本社・福岡支店においては、新規に取引を始めたお客様よる廃棄物の増加があり、南支店においても荷主・発送元の梱包材による廃棄物です。今後は、個々のお客様の廃棄物排出量が判るよう集計し、それぞれのお客様・荷主様に廃棄物排出量が減少するようご協力をお願いしてまいります。南支店は荷主様のご協力により今年度は昨年度より減少しています。

内部監査について、今年度実施した内部監査の内容を整理し、現業業務の内部監査とEA-21の監査項目・監査内容を整えて、来年度は更に充実した内部監査が実施できるよう進めてまいります。会社として有意義な内部監査として根付かせることが大事であると考えます。

以前からマンネリ化が指摘されています環境活動の啓蒙指導（従業員の意識向上・理解）は、新たな手法や教材の開発を引き続き行います。

グリーン購入使用品目について、品目を個々に定めることは限界があると思われま。来年度はこれに変わる何かを探し、目標値と出来るよう研究します。

EA-21の十分な運用ができるよう、今後も環境方針に基づき、当社の事業活動のあらゆる分野で、環境に配慮した行動に努めていく所存です。

## 7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

### ■ 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果

社内でのチェックリストを基に許可証・契約書・管理票・マニュアル・記録データ・その他帳票類等を点検、順守状況を確認したところ環境関連法規、事業に係わる法規いずれも遵守していることを確認しました。

《当社の関連する主な法規制》

主な適用法規	当社の対応	遵守状況
廃棄物処理法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 廃棄物の削減</li> <li>・ 廃棄物の適正処置の確保</li> <li>・ 産業廃棄物保管基準遵守</li> <li>・ 産業廃棄物処理委託基準の遵守</li> <li>・ 産業廃棄物管理票の管理義務</li> <li>・ 産業廃棄物収集運搬業者</li> </ul>	遵守確認済
水質汚濁防止法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 排水への油分混入の防止</li> </ul>	遵守確認済
自動車リサイクル法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ リサイクル費用の預託</li> <li>・ 使用済み自動車を引取業者へ引き渡す</li> </ul>	遵守確認済
労働安全衛生法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安全衛生管理体制</li> <li>・ 健康診断</li> </ul>	遵守確認済
消防法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 消防設備の維持管理</li> </ul>	遵守確認済
貨物自動車運送事業法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業用トラック使用の為の遵守</li> </ul>	遵守確認済
道路運送車両法 道路交通法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 所有車両の法定点検、日常管理</li> <li>・ 法定速度遵守</li> </ul>	遵守確認済
倉庫業法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 営業用倉庫を営む為の遵守</li> </ul>	遵守確認済

### ■ 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果

当社は関連法規制及び同意事項の遵守状況確認を毎年1回実施しており、その結果、違反・訴訟及び地域住民等からのクレームはありませんでした。又、今後も環境関連法規と社会的要求事項を進取し適時改善を行い更なる環境保全活動の制度の向上を図ってまいります。

## 8. 代表者による全体評価と見直しの結果

「ガソリン・軽油の燃費向上」は、目標管理を本社・福岡支店グループと南支店グループに分けて2年目となりました。結果は全てにおいて目標達成出来ませんでした。ほぼ全体で燃費が基準年の2015年度に戻っており、ガソリンについてはそれ以下となりました。南支店グループの軽油は5月から目標達成出来ない状態が続きました。南支店の運転指導体制が替わった頃からだと思います。本社・福岡支店グループは、デジタルタコグラフをより細かく安全運転管理が出来る新機種に交換しました。2018年10月に交換しましたが、交換後の10月から軽油の燃費が向上しデジタコ交換の効果が現れました。これは適切な運転指導が管理者から行われていなかったこととなります。面倒でも原因を追求し、足りない指導方法を探し、是正しなくてはなりません。来年度からドライバーに目標値をより身近に感じてもらうために、ガソリンを、営業車と自家用車、軽油を、大型車・中小型車・コンビニ配達車・冷凍チルド車の6種に分けて目標管理を行うよう指示しました。また、2017年7月に合併しましたグループ企業の「株式会社明和運輸」の車両も南支店グループ所属として目標管理することとしました。

「電気使用量の削減」、「灯油使用量の削減」は、夏期・冬期の気温やエアコンと石油ストーブの使用割合によって大きく左右されます。南支店グループの電気使用量の削減はそろそろ限界に来ているようです。現状にはない節電方法や室温をコントロールする方法・手段を考えなければならぬ時期にきています。

「廃棄物排出量の削減」について、南支店グループは目標達成出来なかったものの、荷主様のご協力があり前年度より減少しました。本社・福岡支店グループは、分解分別からリサイクルへの取り組みにより目標達成出来そうでしたが、前年度末頃から取引開始のお客様による廃棄物の増加で目標達成出来ませんでした。全社での課題として、当社だけで解決するものではなくお客様・荷主様へお願いやご相談し、お互いに協力しなければなりません。目標達成のために行った取り組みが重要であり、それをEA-21で表現して欲しいと考えます。

南支店に雨水利用のためのタンクを設置し洗車場を整備する件は、今年度も予算が確保できませんでした。来年度は予算確保を努力します。

グリーン購入（全社）や地域活動項目（南支店グループ）の活動目標は、もっとマクロな視点の目標にしたほうが実施手順などを考えることが出来て良いかと思えます。

毎年同じことになっていますが、今年度も問題点の是正と予防の起票が十分ではありません。問題点や予防する点を見つけ、対処を考え実施することがまだまだです。特に小さな予防処置の実施が、大きな問題を未然に防ぐことを理解してもらいたい。

内部監査について、実施した内容は、「まずやってみよう」から始めました。運行管理業務（運転日報、運行記録や労務管理など）の内部監査を行い、その中でEA-21の監査項目を実施してみました。馴染んだ運行業務とEA-21の監査項目を並べて行うことでインタビューの仕方や質問内容を考えることが出来たと思います。来年度は監査項目・実施内容を更にレベルアップするよう期待しています。

教育の内容や指導事項のマネリ化の解消は、まだ解決策が出ていません。新たな手法や教材の開発を引き続き行います。他社の情報など外部へアクセスしてみるよう指示しました。

来年度は、グループ企業の「株式会社 明和運輸」と合併した後の組織で3カ年の目標設定管理を行います。大きな組織変更は当分無いと思えますので、これからが新たな挑戦だと考えています。そして、次の階段へステップアップするために、当社自ら販売・提供するサービスを考え、地域活動への参加・協力を推し進めてまいります。

以上